

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271900258		
法人名	有限会社 セブンワーカーズ		
事業所名	グループホーム天鼓		
所在地	千葉県匝瑳市飯倉台10-15		
自己評価作成日	平成23年12月21日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成24年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①人生終盤の幸福な場でありたいという思いで介護する ②親を看取ることの意味を家族と語り、親も子も満足出来る関係を創る ③認知症ケアは究極尊厳ある生活の支えであると思うので重度化の介護としっかりした看取り体制を整える ④8年間休みなく続けた社員研修は職員の人生観に迫り、モチベーションアップのみならず、誇りをもって介護することにつながっている ⑤家族会や運営推進会議の方々や地域で交流してくれる人たちと学びの場、助け合いの場が膨らんでいる
--

ホームの理念のひとつは「主体はご利用者様」であり、理念に沿った入居者本位のケアが実践されていることが伺える。職員の質向上のために外部内部の研修への参加を積極的に勧めている。管理者は職員の意見をよく聞き、良いと思えばすぐに取り入れている。2階の入居者の避難誘導にすべり台が必要であるとの意見が出た後、すぐに設置して訓練を行った。また、入居者の日中活動のメニューがフラワーアレンジメント、畑仕事、散歩など多彩で、入居者が選択する楽しみを持てるようにしている。今年度は4例の看取りを経験したが、家族を巻き込んで、一緒に本人の最後を支えることを大切にしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1.ほぼ全ての利用者の 2.利用者の2/3くらいの 3.利用者の1/3くらいの 4.ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1.ほぼ全ての家族と 2.家族の2/3くらいと 3.家族の1/3くらいと 4.ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1.毎日ある 2.数日に1回程度ある 3.たまにある 4.ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1.ほぼ毎日のように 2.数日に1回程度 3.たまに 4.ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1.大いに増えている 2.少しずつ増えている 3.あまり増えていない 4.全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1.ほぼ全ての職員が 2.職員の2/3くらいが 3.職員の1/3くらいが 4.ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1.ほぼ全ての家族等が 2.家族等の2/3くらいが 3.家族等の1/3くらいが 4.ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設を踏まえ、地域の行事に積極的に参加している。地域の皆さま社内研修に参加して頂いている	理念の達成度について、毎年職員アンケートを実施し、達成に向けて年間目標を定めている。職員各自では個人目標をたて、6か月後に見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年のあいさつに、利用者様と一緒にご近所宅を訪問。パン屋、大工さんなどすべて地域の皆さまにお願いしている	地域との交流に積極的に取り組んでいる。訪問した時は、ちょうど3人の入居者が、地域の小学校の「昔遊び」の先生としてお手玉を教えに出かける場所であった。震災後は家族自ら近隣に「見守ってほしい」という内容のパンフレットを配布しながら挨拶周りをした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議、家族会など地域の皆さまにも声をかけ、一緒に認知症の勉強会を行っている。精神科Drの講義に声かけ参加してもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3.11後の運営推進会議で家族より、“災害時地域の皆さまに力を借りることになる。”との意見により9月家族の皆様でご近所へお願いに行ったり、父や母を宜しくというチラシ配りをした	市職員、地域住人、ボランティア、家族など多彩なメンバーで定期的に開催している。運営推進会議の後、多数の家族が認知症サポーター養成講座を受講したこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	12月11日運営推進会議・家族会終了後13:30分より匝瑳市主催認知症サポーター養成講座に12名参加	運営推進会議への出席を得ている他にも、市担当者とは日常の交流があり、意思疎通が図られている。市主催の施設ケアマネジャー勉強会などもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	“怒りのストレス解消法を見つけるワークシート”等利用し職員のストレス解消法を学んでいる。夜間以外全館施錠はしない	パンフレットにも日中施錠はしないと明記しており、自由に入出入りできる。身体拘束については、研修等を通して職員に徹底されており、意識が高い。ストレス解消法を学ぶことにより、入居者と職員の良好な関係を築くようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者他数名”虐待防止について”の講習会を受講している。虐待防止のために市町村との連携を図っている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を全職員で行っている。匠瑛市主催の成年後見制度勉強会に数名にて参加。入居者様の事例があり本人のプラスになるように対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分からないことには専門用語ではなく、十分な理解、納得いただけるように、ゆっくり時間をかけ説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの強い希望があり看取りを4名おこなった。“母の事は自分でしたい”との希望にてNSより吸引・食事介助方法を家族に指導した	家族の来訪は多く、その時に話を聞くようにしている。入居者や家族から把握した内容は業務日誌や生活記録で情報共有を徹底している。ホームと家族と一緒に入居者の思いを支えていくような取り組みをしている。また、職員は刺繍の名前入りのエプロンをしており、話しかけやすい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	H23. 10. 18防災訓練終了後の反省会にてスタッフより避難用のスベリ台を設置してほしいとの要望がある。急ぎよ設置する	月1回の全体会議、ホーム会議では活発な意見交換がされている。震災後、2階からの避難にはすべり台が必要であるとの提案があり、すぐに設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て支援制度がある。育児中の人には就業上配慮されている。研修会参加者への表彰制度あり、賞与に反映される。介護処遇改善給付金の支給がありオープンになっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その人一人ひとりに必要な外部研修や本人希望する研修に参加出来るような勤務等配慮している。勉強したい人にはチャンスが与えられてるし全額会社負担が多い		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの皆様と一緒に社外研修に参加している。他のグループホームに訪問をした		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他事業所など関係者よりの情報をえる。利用開始前ご利用者様ご家族様のお話をじっくり聞くなど信頼関係を持てるように最大の努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配なことや困った事など何でも話して頂けるような声かけや環境作りをしている。ご本人の思いを共有し良い人間関係を築けるよう家族とはよく話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のお話をじっくり聞き、希望や必要な事を見つける。個々に求められるケアにつなげる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であるグループホーム”共に生きる”を基本とする言葉かけや行動をしたい。一緒に畑を作り花植えをしたり台所仕事や掃除をする。近くのスーパーや遠くへの買い物にも同行する		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の身体状況等の変化そのままを記録し、来所時や毎月の手紙でお知らせしている。面会や一緒にお泊りも出来るようにし、家族関係が継続出来るように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ゴルフ仲間の人達が来訪されたので、席を設け、今後も関係が継続出来るような声かけをしている。部落の友人や同級生なども来所し、話がはずんでいる	家族、親戚、友人などの訪問を歓迎している。電話や手紙の支援の他、お墓詣りに行きたいという希望もかなえられるよう、家族と協力しながら、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様との間に入り会話が弾むような工夫をしている。お話の出来ない人にもボール遊びや唄を歌ったり集団の中に入れるような声かけや誘導をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入院時の見舞い、葬儀に参加、その後の家族よりの相談にも応じている。”寂しいの”と言いつつ来所し思い出話をスタッフとし、帰られることが何度もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室にご本人の希望があり、スタッフと一緒に線香や花を供えている	かかりつけ医への通院では職員と入居者が一対一になるので、その時はじっくり話を聞いて、思いを把握するようにしている。困難な場合も様子や表情から好きなこと、嫌なことを掴むように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	庭や畑に行き草取り、夏にはキャベツの虫とりをみんなで楽しみに行うなど、馴染みのある生活を支援する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行う。申し送り時にその日の過ごし方を決めている。体調を見ながら変更をする。1～3ヶ月以内に見直し変更している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望をしっかりと聞き施設長、NS、介護者で話し合い計画を作成する。ケース会議や天鼓勉強会でモニタリングをする。その都度必要な計画に変更している。1～3ヶ月以内に見直し変更している	日頃から本人や家族の要望を把握しており、月1回のカンファレンスで、話し合っ計画を作成している。モニタリングも定期的実施しており、適切なサービスが提供されるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	目標を毎日の生活記録に添付し毎日見直しをしている。毎朝の申し送りに情報を共有し、職員間の意見交換を行って、ケア計画に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア計画に添い朝のミーティングでその日のニーズを確認。日により散歩やドライブ等楽しい行動計画を作ったり、楽しみの枠をふやしている。個別的又はご家族による突発的な外出にも応じている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園のブランコやふれあいパークでの食事会、スタッフと一緒に回覧板を回す等社会との交流の機会を持ち、行動範囲が広がるように実践している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	匠瑛市医療ネットワークに参加している。開業医がほとんどの人の主治医なので、24時間体制をひいている事になっている。ご本人の希望により若い頃からのかかりつけ医を希望される方等安心した生活が今後も継続出来るようにしている	これまでのかかりつけ医への受診を支援している。家族の協力を得ることにしているが、場合によっては職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤し、3名いる。日々の状態を把握している。必要に応じて素早く看護師による全職員への指示、伝達を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必ず過去数年間の介護経過、医療情報を伝達している。退院時は看護サマリー、医療情報をもらい引き継ぎをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り支援の方針を作成する。スタッフ全員が勉強会で学び運営推進会議で市町村や家族に伝える。家族、NS、ケアマネ同席にて話し合いをし、主治医に伝える。その後主治医による夜間も含めた頻回な往診がある	ホームでの看取りを希望する家族が多く、今年度も4例の看取りを経験した。ターミナルケアには家族の協力が欠かせない旨を、よく説明し、理解を得ている。職員の意識も高い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急救命訓練を行っている。新入職員を除きすべての職員が救急救命の講習を受講している。毎朝マニュアルで確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。市町村の介護保険事業者防災会議に施設長他数名で出席。防災マニュアルを毎日読み上げ徹底した初期動作が行えるようになっている	ホームで作ったたたき台をもとにして、家族会でも災害時に関する議論をしている。職員の見解から2階からの避難用としてすべり台を設置した。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ベーシックや排泄マニュアル等申し送りや勉強会で確認、学んでいる。室に行きついでに衣類交換をする。失敗があっても本人を傷つけないような行動や言葉かけをしている	職員の入居者への接し方には、本人を尊重していることが伺えた。職員に対する研修もしっかり実施されている。プライバシーに係ることは、基本的に居室で話したりするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつは数種類の菓子やせんべいを皿に載せ個々に選んでもらっている。外出時はお店で好きなお弁当をえらんでもらう。チラシをみて今日何が食べたいと意見が出ると、たいていそうしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パンの好きな人にはパンを、カレーの嫌いな人には他の物を準備している。ソファーに座る人、和室に横になる人、居室で休む人好きな時に自由な行動が出来るように見守りや声かけ、誘導をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の選んだ洋服を着て頂く(時々スタッフもアドバイスさせて頂く)パーマ、整髪、帽子等本人の好みを入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者様の話を聞き出来るだけ希望に添えるようにする。スタッフと一緒に野菜の皮むきやもやしひげとりなど出来ることをして頂いている。外食も希望で食べたいところに行っている。	毎回、彩りよくバランスの取れた食事が提供されており、楽しく食事をしている。時には外食やバイクに行くこともあり、食事が楽しいものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は必ず記録する。栄養を考えたメニューを作る。摂取しやすい食材の工夫をし、不足分は好きな物、食べやすいもので補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所まで行ける人、ボールをテーブルまで持っていき等しそれぞれにあった口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	DVD鑑賞等研修会で学んでいる。定期的なトイレ誘導を行う事で習慣化しトイレでの排泄が出来るようにしている。	トイレで排泄することを大切に考えており、3か月半入院していた人が、今では日中はトイレに行くようになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	意識的に寒天、ゼリー、いも類など繊維質の多い食材を摂取できるようにしている。排泄時には腹部のの字マッサージをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴介助方法を作成。入浴拒否のある人にも楽しく入浴出来るように、昔話をしたり唄を歌ったり、個別ケアの時間だと思ってゆとりを持って支援している。日々変化もあるのでそれに合わせる	時間帯も決めずに、入浴を支援している。毎日入る人、デイサービスのリフト浴を利用する人もいる。また、冬至には職員が自宅で取れたゆずを持ってきてゆず湯にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなるまでホールでスタッフとテレビを見ている人や早々と眠くなる人、ゆっくり昼寝をする人など自由な支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の記録簿の裏にその日の服薬を記載し、介助者による服薬の確認をしている。変化があるときはNSを通じDrとの連携を図るなどしてきちんと管理できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきやもやしのひげとり、洗濯物の整理、畑の草取り等その人の生活歴にあった支援をしている。お好きな食べ物を用意したり、レクに楽しく参加出来るような声かけをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	親戚の新年会に参加したいとおっしゃる利用者様に希望にそえるよう、家族に連絡、働きかけをした。墓参りや孫の結婚式に正装して行くなど協力している	散歩などの他、車でみなで外出することもある。訪問当日は、地域の小学校にお手玉を教えにいった入居者と職員が、帰りにそのまま町を散歩して、食事をして帰ってきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方はご自分でサイフを持ちお出かけ時には買い物をしふだん近くのコンビニ等買い物に行く、スタッフ同行する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話をしたい時にはいつでも電話をかけてさしあげている。利用者様が書いた手紙はご家族に届くようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お正月にに向けてフラワーアレンジメントを作成する。こち良い空間が持てるように温度や湿度を毎日朝、タッチアップしている。夜の温度や明け方の温度は適当かなど、職員が気をつけている。	明るく広い共有空間はソファや畳の部分あり、一人ひとりが落ち着ける場所がある。室温や光も適切に調整されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日、自分の思いついたところに座り、気の合う友達との会話をしている人もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたソファや椅子を持ってきている人もいる。居室は日常生活の中で、支障なきよう配置し、きれいに整えている。臭いや温度をよく調整している。布団もよく干している	居室には、これまでずっと使ってきたタンスや人形を置くなど、その人らしく居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい表示をし夜間の照明を明るくすることなど生活上の工夫をしている。夜間のトイレは電気をつけてドアをあげ放しておくわかり易い。自室の明かりも真っ暗ではなく本人のこのみの明るさで安全を確保している		